

に にん さん きゃく 二人三脚

トーマスとサラは、なかなか^{なか よ}仲良しに^ななれません。何かにつけ、いつも^{い けん}意見が合わないのです。けれども、おかしいことがありました。この二人は、他の^{ふたり ほかに}人ならだれとでも、友達^{ともだち}になれたのです。二人には、まったく^{まった おな}同じ友達さえいました。

それなのに、トーマスとサラは、しょっちゅう^{くち}口げんかをしていました。ある時^{とき}二人は、パーティーのゲームで、チームになりました。最初^{さいしょ}は、ちっともうまくいきませんでした。

「トーマスったら！」サラがいらいらして^{こえ あ}声を上げました。私が^{わたし}こっちに^い行こうとすると、あなたは反対^{はんたい}の方に^{ほう}行きたがるのね。だから私達^{わたしたち}、転んじやうのよ。」

「じゃあ、ぼくの^い行きたい方は、どうなっちゃうんだよ？」と、トーマスが^い言いました。

トーマスとサラは、大きなズボンの^{おお かつあし}片足に^{かたあし}自分達の^{じ ぶんたち}片足を^い入れているのですが、



ひとり^{ひとり}一人が^{うご}動こうとするたびに、もう一人が、がんこにも^{はんたいほうこう}反対方向に^い行こうとするのです。おな^{おな}同じズボンを^{ふたり}はいてから、二人は^{いっ ぽ}一歩も^{すす}進めない^{じょうたい}状態でした。たがいの^{あし}足や^{うで}うでの^{うえ}上に^{ころ}転んで、^{はら}腹を^た立てるばかりでした。

「あなたが^{ころ}転ばせたのよ！」サラが^{おおこえ}大声を^あ上げました。

「こんなの、全然^{ぜんぜん}うまく^いいかないよ！」トーマスも^{おおこえ}大声で^い言いました。

「私の^{わたし}せいじゃ^いないわ！」と、サラ。

するとその時^{とき}、友達^{ともだち}のマットと^{とお}カレンが^{かれ}通りがかりました。彼らも、同じズボンの^{かたあし}片足に^{し ぶんたち}自分達の^い片足を^い入れて、同じゲームを^{ある}しています。けれども、マットと^{なん}カレンは、何の^{もんだい}問題も^あなく^{ある}歩いているではありませんか。

「一体、どうやっているのかしら？ 私達^{わたしたち}は^{ころ}転んでばかり^いいるのに。」と、サラが^い言いました。



トーマスは、マットと カレンに 声を かけて 言いました。「君達は、どうやって そんなに うまく やっているんだい？ ぼく達は、進もうと するたびに 転んでばかりなんだ！」

マットが 答えました。「わりと 簡単だよ。おたがい、相手に 合わせるように するんだ。まずは、カレンの 行きたい 方に行く。その次は、ぼくの 行きたい 方に行くんだ。」

「サラ、ぼく達の 問題が 何か、分かった 気がするよ。」 トーマスが 言いました。「ぼく達は 二人とも、ちがう方にばかり 行こうと するから、いつも いつも 転んじゃうんだよ。」

サラが 立ち上がって 言いました。「じゃあ、私は あなたの 行きたい 方にばかり ついて 行かなくちゃ いけないって ことなの？」

トーマスが 言いました。「ぼく達、今は ちっとも 進めない 状態だろ。どうにか しないと。どこに 行くか、いっしょに 決めようよ。そして、交代で リードするんだ。サラの 行く 方に ぼくが 行ったら、その次は、ぼくの 行く 方に サラが 来たら いいんだ。そしたら きっと、目的地に 着けるよ。」



「じゃあ・・・やってみましょうか・・・。」

トーマスは サラに うでを 回し、サラも トーマスに うでを 回しました。最初は ちょっと ぎくしゃくしていたけれど、だんだん なれてきて、まもなく 二人は 肩を 組んで、いっしょに 決めた 目的地に 楽しそうに 進んだのでした。



あなたには、自分と 合わないと思う 人が いますか？
その人の 必要や 希望を 考えてあげるように しましょう。それこそ、
新しい 友達を 作る ヒケツかも知れませんよ。